

魅力というのは不思議なもので、学生の成績表に例をとれば、
ひとは、4、4、4、4、4、4という生徒より
5、5、5、1、1、1（総合点では前者より6点も落ちる）
という成績のものにより魅かれるようである。

努力して欠点を矯め、すべてを平均レベル以上のものにしても、それはなぜかのっぺらぼうに
みえてしまう。

それより、たいして努力もしないのにキラリと光るところがあり、
又、まるで駄目な部分も併せ持っている、
というものの方に先の楽しみを感じてしまう。

もちろん「努力」がなければ「魅力」は輝きを増さないのだが、
努力をすればそれに比例してどんどん魅力が付加されてゆくか、
というとそういうものでもない。

**「努力」は素質と関係しないが、
「魅力」はその人の生まれもった素質と深い関わりをもっているように思われ
る。**

話がそれだが、
天は、西郷を死なせなかった。

世の中で、まだお前のやり残した事があるのだ、というように西郷だけを蘇生させている。

意識を取り戻したときの西郷の心境はどのようなものであただろう。

藩は、生き残った西郷の措置に窮し、その名を菊池源吾と変名させたうえ、奄美大島へ潜伏塾
居させることに決定する。

一度目の島暮らしである。